

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

岬には、堂一つあり。本尊は観音(注)におはします。隔てもなくまた坊主ぼうずもなし。ただ修行者、行きかか
る人のみ集りあまて、上もなく下もなし。いかなるやうぞといへば、「昔、一人の僧ありき。この所に行ひて
ゐたりき。小法師一人使ひき。かの小法師、慈悲をさきとする志ありけるに、いづくよりといふことも
なきに、小法師一人来て、齋(注)・非時ひじを食ふ。小法師必ずわが分をわけて食はず。坊主いさめて曰く、『一
度二度にあらず。さのみ、かくすべからず』といふ。またあしたの刻限に來たり。『志はかく思へども、
坊主しかり給ふ。これより後はなおはしそ。今ばかりぞよ』とて、またわけて食はず。いまの小法師曰
く、『このほどの情なさけ、忘れがたし。さらば、わがすみかへいざ給へ、みに』といふ。小法師語らはれて行
く。坊主あやしくて忍びて見送るに、岬に至りぬ。(一)そこの小舟に乗って、棹を使って進ませ
く、『われを捨てていづくへ行くぞ』といふ。小法師、『補陀落世界(注)へまかりぬ』と答ふ。見れば、二人
の菩薩ほさつになりて、舟の艫(船首と船尾)に立ちたり。心憂く悲しくて、泣く泣く足摺あしずりりをしたりけるより、足摺あしずり
といふなり。岩に足跡とどまるといへども、坊主はむなしく帰りぬ。それより、隔つる心あるによりて
こそ、かかる憂きことあれとて、かやうに住まひたり』といふ。(注)三十三身の垂戒化現(注)これにやと、いと
たのもし。

(後深草院二条「とはすがたり」から。)

(注) 観音かんおん観世音菩薩のこと。人々をこの世での苦悩から救済し、「慈悲」の象徴とされる。「智ち慧え」の象徴である勢至せいし菩薩とともに阿弥陀あみだぶつの両脇に控えている。

齋さい・非時ひじそれぞれ僧の午前中の食事と午後の食事のこと。

補陀落世界ふたらくせかい南海上にあるという観世音菩薩が住む世界。

二人の菩薩ふたりのぼさつ観世音菩薩と勢至菩薩。

三十三身さんじゅうさんじん観音が民衆を救済するために現す三十三種類の姿。

垂戒化現すいかくげげん神仏などが戒めを示すために形を変えてこの世に姿を現すこと。

(ア) —線1「坊主いさめて曰く」とあるが、「坊主」はどんなことをいさめたのか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「小法師」が、修行をさぼって食べてばかりいること。
- 2 「小法師」が、他の小法師と一緒に食べ物に文句を言っていること。
- 3 「小法師」が、与えられた食べ物を粗末にしていること。
- 4 「小法師」が、やって来る小法師に自分の食べ物は何度も分け与えていること。

(イ) —線2「これより後はなおはしそ」の現代語訳として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 今後はいらっしやらないでください。
- 2 今度は見つからないようにしましょう。
- 3 このことは誰にも話さないでください。
- 4 あとでゆっくり話しましょう。

(ウ) —線3「泣く泣く足摺りをしたりける」とあるが、このときの「坊主」の様子を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

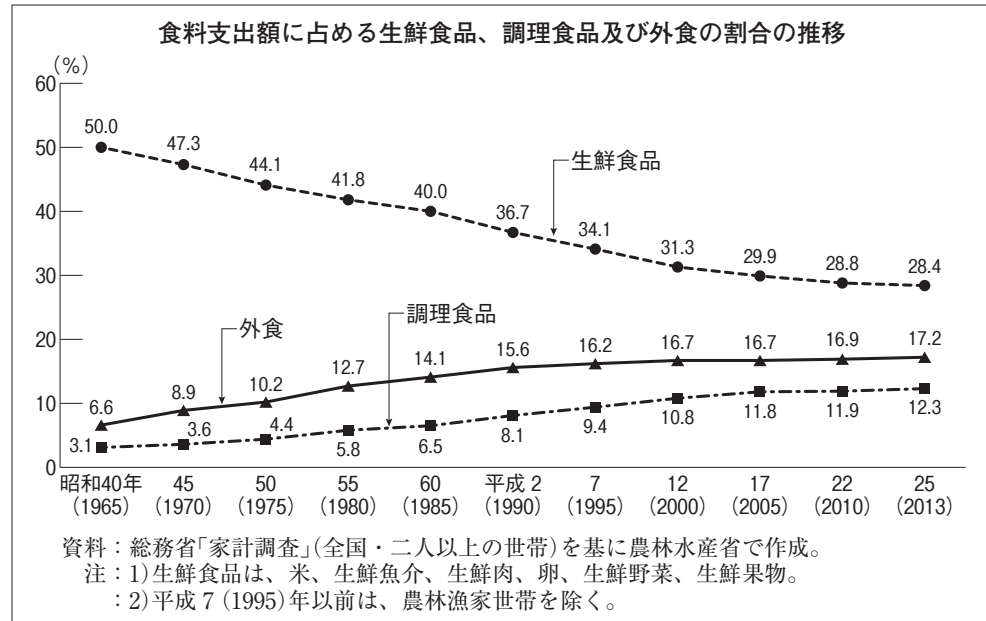
- 1 「小法師」が長年の恩に報いずに出て行ったことに腹を立てている。
- 2 跡を継がせようとしていた「小法師」がいなくなつて途方にくれている。
- 3 「小法師」に置き去りにされたことで悲しみに打ちひしがれている。
- 4 「小法師」が補陀落世界に連れて行ってくれなかったことを恨んでいる。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「小法師」がいなくなつたあと、「坊主」もどこかに立ち去り、住む人がなくなった岬のお堂は荒れ果ててしまった。
- 2 「小法師」に去られた「坊主」は、人を分け隔てる気持ちがあるからつらい目に遭つただと考え、お堂の仕切りを取り払った。
- 3 「小法師」と自分の行く末を悲観した「坊主」が岬から海に身を投げたことから、その岬は足摺岬と呼ばれるようになった。
- 4 「坊主」は、岬のお堂にやって来る「小法師」たちに分け隔てなく食べ物を与えたことで垂戒化現となり、人々の信仰を集めた。

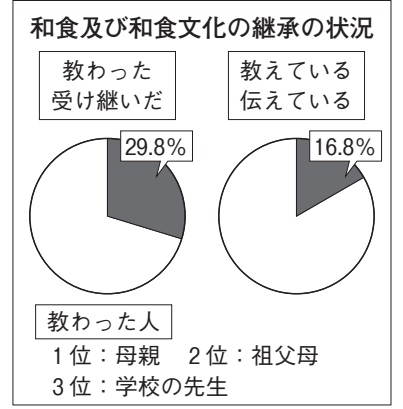
問五 中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、「総合的な学習の時間」に日本人の食生活の現状と課題について調べ、話し合いをしている。次のグラフ1、グラフ2、資料と文章は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

グラフ1



「食料・農業・農村白書(平成26年度)」から。

グラフ2



「平成27年度『和食』の保護・継承推進検討会『食生活に関するアンケート調査』」から。

資料

博報堂生活総合研究所が20歳から69歳の男女を対象に行った調査によると、正月におせち料理を食べた人の割合は平成四(一九九二)年には86・6%でしたが、二十年後の平成二十四(二〇二二)年には74・8%まで低下しています。正月用に作るおせち料理は、日本の食文化の中で培われてきた料理と考えられますが、近年では、こうした伝統的な食習慣が薄れつつあると言えます。

Aさん 本日は、私たちの食生活の現状と課題について考えてみましょう。父や母の若い頃に比べて、今はコンビニやスーパーにいろいろな惣菜が並び、飲食店もたくさんあります。日本人の食生活はどのように変化してきたのでしょうか。

Bさん グラフ1は、食料支出額に占める生鮮食品、調理食品及び外食の割合の推移を示したものです。これを見ると、ということがわかります。つまり、自分で食材を買って料理する人が減っているのです。

Cさん こうした傾向が続けば、その地方ならではの農作物や魚介類をおいしく食べるための知恵や工夫が、後の世代に伝わらないのではないのでしょうか。

Dさん 日本人の食生活については他にも気になることがあります。資料を読むと、お正月におせち料理を食べない人が増えていることがわかります。二〇一三年に「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録された理由の一つに、年中行事と密接に関わっていることが挙げられていますが、おせち料理ひとつとっても、食文化の継承に不安を感じます。

Aさん では、日本の食文化を守って伝えていくことは難しいのでしょうか。
Bさん グラフ2は、和食に関するアンケート調査の結果ですが、これを見ると、「和食を教わった」という回答も、「和食を教えている」という回答も、三割以下です。

Cさん 注目すべきは「教えている」と答えている人の割合で、ずいぶん低いですね。

Dさん グラフ2と資料の内容は、現在のやり方では限界があることを示していると思います。ですから、食文化の継承のためには、……………が有効だと考えられます。

Cさん 私の祖母の住む東北地方のある町では、地域の活性化の一環として、地元の農作物を使った郷土料理の体験学習が行われています。たとえば、こうした活動に参加することでも和食文化にふれられると思います。

Bさん おせち料理は長寿や子孫繁栄への願いを表していると言われますが、伝統的な食習慣にはそれぞれ意味があるということを知ること大切ですね。

Dさん 私は、地元の農作物を使った料理が少しでも作れるようにしたいと思います。

Aさん ここまで、私たちの食生活の現状と課題について話してきましたが、日本の食文化を伝えていくためにも、毎日の食事の内容に関心を持つようにしましょう。

(ア) 本文中の [] に入れるものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 食料支出額に占める生鮮食品の割合は、一九六五年から年々減少しており、二〇〇〇年以降は外食と調理食品の割合の合計より低くなっている

2 食料支出額に占める生鮮食品と調理食品の割合が一九六五年から年々減少しているのは対照的に、外食の割合は増加している

3 食料支出額に占める生鮮食品の割合は一九六五年から二〇〇〇年まで年々減少しており、二〇〇〇年を境に調理食品及び外食との差が詰まってきた

4 食料支出額に占める生鮮食品の割合が一九六五年から年々減少している一方で、外食と調理食品の割合は増加している

(イ) 本文中の …… に適する「Dさん」のことは、次の①～④の条件を満たした一文で書きなさい。

① 書き出しの [] 食文化の継承のためには、 [] という語句に続けて書き、文末の [] が有効だと考えられます。 [] という語句につながるように書くこと。

② 書き出しと文末の語句の間の文字数が二十五字以上三十五字以内となるように書くこと。

③ グラフ2、資料から読み取った内容をふまえていること。

④ 「和食」「地域」という語を、どちらもそのまま用いること。

(問題は、これで終わりです。)